

## 卒業後のキャリア形成に及ぼす要因の検討 (4)

Investigation on factors affecting to the career formation after graduation (4)

岩瀬 靖彦<sup>1</sup>, 本田 周二<sup>2</sup>, 吉田 真知子<sup>3</sup>, 佐藤 祐子<sup>4</sup>, 戸田 里和<sup>5</sup>, 伊藤 陽子<sup>6</sup>

Yasuhiko Iwase<sup>1</sup>, Shuji Honda<sup>2</sup>, Machiko Yoshida<sup>3</sup>, Yuko Sato<sup>4</sup>, Satowa Toda<sup>5</sup> and Yoko Ito<sup>6</sup>

<sup>1</sup>大妻女子大学家政学部, <sup>2</sup>大妻女子大学人間関係学部, <sup>3</sup>東京聖栄大学健康栄養学部, <sup>4</sup>東京医療保健大学医療保健学部, <sup>5</sup>奈良県立大学地域創造学部, <sup>6</sup>山梨学院大学健康栄養学部

キーワード: キャリア形成, 学生生活, ギャップ

Key words: Career formation, Campus life, Gap

### 1. 研究目的

本研究は2018年度～2020年度の共同研究プロジェクトの継続研究である。現在の日本における大学では、進学率の向上などにより多様な学生が入学するようになっており（いわゆる、大学全入時代）、その結果、学生の質の変化（将来の職業や学修への自覚の欠如）が指摘されている。また、産業構造や就業構造の変化といった社会全体を通じた構造的な問題も生じている中で、近年、大学に対する社会的な要請が大きく変わりつつある。

その一つの大きな柱が大学の教育改革（教育の質保証）である。大学教育・授業を取り巻く様々な環境整備（学生による授業評価、ファカルティ・ディベロップメント、GPAによる厳格な成績評価など）を行い、学生にしっかり勉強させる、学生がわかるような授業をすることを大学はこれまで以上に求められている（溝上, 2006）。

以上のような教育改革を学生の視点から考えると、在学中の学びにより自分自身が望むキャリアを形成することが出来るかが重要となる。学生は様々な動機で大学に入学し、学びを深めているが、多くの学生は、卒業後に自身の求める進路に進むことを希望していると考えられる。そのための教育を大学は求められていると言える。一方、進路意識や目的意識が曖昧なまま入学する学生も一定数存在しており（文科省, 2010）、入学当初希望していた卒業後の進路が在学中に変化することも十分に考えられる。

このような学生がどのようなきっかけで進路変更を希望し、自身の望むキャリアを形成していくのかについて理解することは、卒業時の質保証を考える上で重要であろう。しかしながら、在学中

の学びと卒業後のキャリア形成との関連について明らかにした研究はあまり見られない。

上記の問題意識に基づいて、申請者らは、2018年度に学部4年生を対象に在学中の学びと卒業後のキャリア形成との関連について質問紙調査を行った。その結果、（1）資格取得が主目的の学科・専攻に入学した学生は大学への満足度、学びの意味づけが高いこと、（2）資格が主ではなく、入学時から進路変更をしなかった学生は、なんとなく大学生活を送った人が多いこと、（3）資格中心に大学生活を送った人は、他の人たちよりも学びを活かした進路先を選択することができていたこと、などが明らかとなった。次に、2019年度には、大学（大学院）を卒業（修了）後10年以内の人を対象として、在学中の学びと卒業後のキャリア形成との関連について量的・質的に検討するためにWeb調査およびインタビュー調査を実施した。その結果、（1）大学（大学院）を受験しようと思った理由としては、興味のある専門知識、技術の習得が一番多かったこと（2）約半数が在学中に取得した資格や免許を活かして仕事をしていること、（3）一方で、6割以上が在学中の（資格や免許ではない）学びを現在の仕事に活かしていないと考えていること、などが明らかとなった。さらに、2020年度には、大学1年生を対象として、入学前の興味関心と入学後に実際に学びを深めていく中で感じたギャップについて複数の大学を対象としたWeb調査を行った。その結果、（1）入学前後の大学に対するイメージが悪化していた人たちよりもイメージ通りであった人たちの方が大学志望度が高いこと、（2）所属学部・学科とイメージとの関連について、人文科学系に所属している人た

ちはイメージが好転している場合が多く、家政学・食物栄養はイメージの悪化が少なかったこと、

(3) 入学前後のギャップを低減する一つとして高校での進路指導の有用性が示唆されたこと、などが明らかとなった。一方で、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響によって、日本全国の大学が対面ではなくオンラインでの授業を実施したことにより、対象とした大学1年生はその影響を大きく受けていた。そのため、当初想定していたデータとは異なるものが抽出された可能性が高い。また、入学当初に感じたギャップを大学生活の中でどのように意味づけていくのかという個人内の変化が大学での学びやキャリア形成に影響する可能性も考えられる。

そこで、本研究では、大学1・2年生を対象として、入学前の興味関心と入学後に実際に学びを進めていく中で感じたギャップやギャップに対する意味づけの変化などについて複数の大学を対象としたWeb調査およびインタビュー調査により明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究実施内容

現段階で、Web調査が終了し、インタビュー調査については実施している途中であるため、現段階での実施内容について報告する。

### 【Web調査】

調査対象者：日本全国の大学1・2年生113名(男性15名、女性97名、不明1名)、平均年齢19.42( $SD=0.77$ )であった。

調査内容：(1)年齢など基本的属性、大学への志望度・志望動機、現時点での満足度、入学前後の大学への印象、GPA(2)高校での学び、進路指導の機会、大学での学び(3)主体的学習態度、TIPI(Ten Item Personality Inventory)、2つのライフ、(4)大学入学前後のギャップ

### 【インタビュー調査】

調査対象者：関東の女子大学1・2年生20名(予定)

調査内容：(1)年齢や所属などの基本的属性、(2)志望度、志望動機、現時点での満足度、入学前後の大学への印象、意識の変化、(3)大学での学び

## 3. まとめと今後の課題

インタビュー調査については実施している途中であるためここでは報告しない。Web調査につい

て、現段階で得られた結果について、まとめて報告する。

大学への志望度：大学受験時の志望度について、希望していなかった(7:6.2%)、あまり希望していなかった(9:8.0%)、やや希望していた(33:29.2%)、希望していた(64:56.6%)であった。2020年度の結果では、希望していなかった(44:17.6%)、あまり希望していなかった(41:16.4%)、やや希望していた(66:26.4%)、希望していた(99:39.6%)であったことを考えると本研究での調査対象者は、志望度の高い学生が多いことがわかる。

大学に関する満足度：大学に関する満足度について、満足していない(7:6.2%)、あまり満足していない(25:22.1%)、やや満足している(56:49.6%)、満足している(25:22.1%)であり、約7割が教育に満足していた。2020年度の結果では約6割が満足していたという結果であり、志望度の高さとの関連があるのではないかと推察される。大学入学前後のギャップ：入学前と入学後で想像していたことと違うことがあったのかについて、ある(80:70.8%)、ない(33:29.2%)であり、7割以上が入学前後でギャップを感じていることが明らかとなった。なお、2020年度の結果では8割以上の学生がギャップを感じていた。

ギャップに対する捉え方：ギャップがあったと回答した人たちがギャップをどのように捉えているのかについて、悪い(7:8.8%)、どちらかという悪い(51:63.8%)、どちらかという良い(14:17.5%)、良い(7:8.8%)、未回答(1:1.3%)であり、7割以上の学生がギャップを悪いように捉えていることが明らかとなった。

ギャップを経験した時期：ギャップを経験した時期について、入学してすぐ(20:25.0%)、大学1年前期(29:36.3%)、大学1年後期(20:25.0%)、大学2年前期(8:10.0%)、大学2年後期(2:2.5%)、未回答(1:1.3%)であり、9割近くの学生が大学1年生の間にギャップを認識していることが明らかとなった。

ギャップの捉え方の変化：ギャップを経験してから現在にかけて、ギャップの捉え方に変化があるかどうかについて、ある(19:23.8%)、ない(61:76.3%)であり、8割近くの学生がギャップの解消に至っていないことが明らかとなった。

今後、より詳細な分析に加えて、インタビュー調査の結果を組み合わせることによって、大学前後のギャップの捉え方の変化にどのような要因が

関係しているのかについて検討していく予定である。

#### 4. この助成による発表論文等

2022年度に学会発表および論文投稿を予定している。